

板橋秀樹代表取締役社社長（以下板橋）

開会にあたりまして当クラブミーティングの開催の趣旨等についてお話をさせていただきます。本日はクラブ自らが主催する初めてのサポーターの皆さん達とのクラブミーティングでございます。開会の主旨でございますが、クラブ側から2024シーズンの開幕に向けて、運営方針その他をご説明申し上げて皆様方と共に通の認識を持ちたいというものでございます。できるだけ多くの皆様に共感と理解をいただくために事前にアンケートの実施をさせていただきまして皆さんのご意見を伺っております。本日はそのアンケートの詳細をお伝えするのとともに、誰もが安全安心で自由に試合を応援できるスタジアムづくりを目指しまして、新しい観戦ルールを定めることとし、その概要についてもご説明を申し上げます。なお従来は市民後援会主催のサポーターカンファレンスにおきまして、それぞれの参加者の個人的な意見や要望に対しまして質疑を行っていたところでございますけども、参加者が少数に限られる傾向がありましたことから今回はより多くのサポーターの皆さんのご意見を伺いました。申し上げましたアンケート結果を基にクラブ主催より公開の形で自由な意見交換を行いたいと考えたものでございます。クラブといたしましては、今回のアンケートによりまして年間チケットの購入者など、長くクラブの成長を見守っていただいた幅広いサポーターの方々で、これまで直接意見表明の機会が少なかった皆様。その皆様のご意見を初めて全体像が見える形で把握できたものと考えております。今後は本日のクラブミーティングの内容やアンケートの自由記述の意見などを踏まえまして、皆様に愛される地域に必要とされるクラブを目指して着実に取り組んでまいりたいと考えております。本日は有意義な意見交換の場となりますよう、ご協力をよろしくお願ひいたします。

磯田敦経営企画部長（以下磯田）

では早速ですが、クラブアンケートの集計結果について、メディアコミュニケーション部長の庄子から説明をさせていただきます。

庄子勝裕メディアコミュニケーション部長（以下庄子）

メディアコミュニケーション部と名前が変わったのは2月からでして、これまでの広報・DX推進部と思っていただいて差し支えございません。始める前にコ

マーシャルになりますが、先日クラブでキービジュアルのポスターを発表しました。この後ムービーも作って発表させていただきます。新聞の下段広告等々でまた選手、今年も格好いい選手がたくさんいて、いいビジュアルも作っていますのでそれを見ていただいて、皆さん的心に火がつけばいいなと思っております。では、クラブアンケートの集計結果についてお話いたします。これまで発表してきたことのおさらいとプラスアルファという構成になっております。まず、書いてある通り昨年 12 月 26 日にクラブアンケートの告知をして皆さんに回答を募っております。従来ホームゲーム後にアンケートをやっていて、それを回答するという前佐々木社長時代からやっていたこともあります、それをもう少し広げたクラブの経営方針とかそういうところについてもご意見いただけるのではないかということで始めています。さっき板橋社長がお話した通り経営方針、チーム強化であったり、ホームゲームの安心、安全についてご意見をいただくとともに三つの質問で回答を募りました。対象は 2023 年ソシオファンクラブの皆様および、J リーガー ID でお気に入りクラブにベガルタ仙台を登録いただいた方にアンケートのご案内をしました。とはいっても、アンケートをウェブでやると初動が全てで最初に引っかからなかった人、気になってない方っていうのはキャッチアップできないというところもありましたので、定期的にメールでお願いを繰り返すという形を取りました。あとは、回答自体は難しくないように選択式にしたものとその他自由記述を行いました。この自由記述の意図というのが賛成のどこに賛成しているか、どこに反対しているかっていうのもありますし、あとどこが分からなのか、どこが伝わっていないのか。そういうものも聞こえるといいなと思って今回導入しております。今お話しましたが、12 月 16 から 1 月 21 日まで実施しております。4 回メールマガジンで回答を依頼しております。4 回それぞれメールを打つたびに回答が増えてご協力をいただいたので、非常にありがとうございました。1 月 25 日アンケートの結果の初報を出したタイミングでクラブミーティングの開催を告知させていただいて、そこで今回のアンケート結果について、本日この後お話しますが、新たな観戦ルールについてお話ししますよという告知をさせていただいております。アンケートの結果。これもホームページでもう公表はしているので特に目新しいところはないのです

が、先ほどお話した通り 4 回の告知です。その後にこの回答数から三つ目の項目になりますが、累計が増えていく形になりました。最終的に 3700。4000 人弱の回答をいただいて非常にありがたかったと思っています。一方、一番右です。重複する回答もありました。これが大体 700 件ぐらいで差し引きすると 3000 名です。チーム ID のアカウント数でいうと 3000 ぐらいの方に回答いただけたという形になっております。われわれ当初の予定よりもはるかにいただいているので非常に感謝しております。皆さんご協力ありがとうございました。次、それぞれの設問、先ほど言った通り三つありました。それについての結果のおさらいとあとは詳細についてのお話をていきたいと思います。1 番最初、競技力の計画的向上と育成強化についてのお話です。これ単に J1 に復帰するわけではなく、その後も定着するという安定した成績を追求したいということで、勝利と育成両方を目指して戦っていきたというようなことをお話させていただきました。補足として、東北がメインの話も少し入れさせていただいた設問になっております。グラフと数字はご覧の通りになっていまして。これはホームページで発表している通りなので、あと追っかけていただければと思います。グラフちょっとはみ出ています。ここのがっかりしたところですが、賛成、やや賛成で 91 パーセントになっています。三つの設問の中では最も一番賛成、いわゆる賛成の意見をいただいたものになっています。

反対の部分。反対、やや反対は 2.4 パーセントでした。これは三つの設問の中で最も低いところになりましたというところです。その後それぞれの内容、自由記述のところで多かったものをピックアップさせていただいている。賛成について「ここ数年の成績不振の原因。その 1 年 1 年の成績を追い求めていただけじゃないのかっていうところからの脱却を図るには必要である、主要クラブのあり方としては必要である」というようなお話を、ご意見をいただいております。また「育成を続けることの積み上げ」です。あとは「内部昇格がたくさん増えるということこそ、クラブのアイデンティティだ」という意見もいただきました。「賛成はするけども極端すぎるのはよくないよ」と「ベテランもきちんと尊重して、いいチームバランスでやりましょう」というようなご意見もいただいております。一方、反対の意見です。「J1 をとにかく目指すべき」「J1 に昇格した後に

手を付けるべきであろう」というご意見。あとは「育成のクラブは宿命ではあるのですが育成、引き抜き、育成、引き抜きが続くことに耐えられない」これは金銭的なものと、クラブの体力的なものかもしれませんがそれに耐えられない。あとは心情的なもの。自分が好きな選手が育ってどんどん旅立っていくのに耐えられないってことがあるのかもしれません。あとは「育成に手を付ける、育成に軸足を置くというのは勝てないことへの理由づくりじゃないか」と。「勝てない、育成だからしようがないって言い訳を初めから打っているのではないか」みたいな、なかなか厳しいご意見もいただいてはおります。その他「育成なんてどのクラブも当たり前じゃないか」「当然のことだよ」というご意見もいただいております。あとは「育成ってじゃあ何」具体的な話。一方で「短期的な目標、じゃあどうするの」こういった意見もいただいております。また今の話とひも付きますが「育成と勝利、二兎を正直追えないのではないか?」っていうような現実、リアルな意見もいただいております。あとは東北学院の話です。これもまだ続報は出せていないのですが、学院って泉キャンパスで遠いのでアクセスの話であったり「そのへんが不安です」みたいな意見もいただいたりしました。あとは「一貫した哲学って今ないのでですか」っていうような話もご意見いただいているんですが、これについてはホームページのクラブフットボールヒロソフィーというメニューの中にパワーポイントを貼ったようなものがあります。これは一つ、去年公開させていただいているので、そちら見ていただくと少し1本筋の通ったものが見えるんじゃないかなと思いますので、もし良ければまだご覧になってない方がいれば是非アクセスして見ていただきたいと思います。あとは単純に経営陣の意見も多数、このパートではいただいている。これ批判がほとんど多かったというところです。これも隠してもしょうがないところなので、こういったものがありますということをお話させていただきます。総じてお話しすると「育成と言うけど大丈夫なの」「本当にやり切れるの」そういう意見が多くかったのではないかと思っています。われわれ宣言していますのでそこに対してブレない姿勢を見せなきやいけないというのが必要かと思っています。ただ一方で、その目標をブラさないために道を間違えたりとか、方向を間違うということ太多々あると思う。皆さんも会社でも目標に対しているんなアプローチ

をしていく。1年、5年で結果を出す仕事に対して1年目こうだったから2年目こうしようとか、3年目こうだったからこうしよう、検証と見直し、これをしながら目標に進んでいくと思うのでわれわれも宣言にはブレないで検証と見直しを続けることで、目標に達していくべきではないかと思っております。あとは東北学院のほうです。これ見える化が必要なのだろうなと単純に思います。これから継続的にホームページ等々、私メディアコミュニケーション部ですのでそういったことを発信していきたいと思っております。あとこのパートで、この後監督とGMのメッセージ届いていますので、私のパート全部終わったら再生する予定になっております。2人とも静かにただすごく熱いお話をしてくれています。静かに燃える熱というか、そういったお話をされていますので思いが伝わればいいなと思っていますし、ここにある「何で今育成やるの?」とか「何でこれからやるの?」みたいなここのヒントであったり、答えが少しでもある動画だと思います。具体性もありますので、この後の動画を見ていただければいいなと思っています。次、スタジアムの魅力向上と観客数の増加対策についてです。これもホームページで見せて発表してあるものになりますので、ここはそのままになります。ここのトピックになりますが、賛成、やや賛成は合わせて83パーセント。三つの設問の中では最も賛成票が少ない部分ではありました。反対、やや反対も6パーセントで、これは反対の意見の中では、三つの中では一番高い反対の割合でした。分からぬという回答も1問目に比べて高かったっていうところがあります。賛成がちょっと低くて、反対が大きくて、あと分からぬ、判断に迷うっていうようなご意見が多かったっていうところがあります。賛成でいただいている意見です。「トライすること自体はいいじゃないのか」と。「失敗してもそれは学びになるからいいじゃないのでしょうか」というようなご意見いただいております。あとは「収益性が上がる所以強化費につなげるべきでしょう」と。あとは「目的は何であれスタジアムに来てもらうっていうことは必要です」こういった意見が多数いただいております。一方反対の意見です。「強ければ観客が増える」それはそうです。あとは「イベントを行うってことで低迷をごまかしているんじゃないか」さっきの「育成はごまかしじゃないか」それと同じようなことになっていると思います。あとは「ぬるい」または「劇場型の

意味をはき違えているのではないか」あとは「今、イベント自体もマンネリ化はしているよね」とか「スケールは小さいじゃないか」そういったご意見はいただいております。その他「イベント、こういうものを行うときには推進力やエネルギーっていうのが必要でしょう」といただいております。あとは「応援の方法だけではなくてイベントについてもフロントと意見交換できる場があり、グループがあってもいいじゃないか」というようなご意見もいただいております。あとここから「周りの圧を感じことがある、アウェイサポも怖いです」「物騒な場所になっています」「劇場型の意味っていうのは負けたときのストレスも増幅させているのではないか」というような意見もいただいております。あと設問で吹奏楽をやるっていうことをアピールしすぎて「吹奏楽が全ての解決ではないのではないか」みたいな話もいただいてはいます。ここに関して、クラブとしては魅力向上で観客数を増やしたいと話をしていますが、クラブの考える魅力っていうのは何なのかな?というのも、やっぱりこれも具体的にわれわれは提示できなかったのかなっていうことを反省としては考えております。同じように熱狂は、劇場型っていうのは何だろうかっていうのをもう一度考えなければいけないということも、これだけ反対と賛成で割と分断されてしまうようなことになっていますので、そこが提示できてない、あるいは曖昧なのかなっていうふうには思っております。ただ一方、それって強制するものでもなくて、そこで生まれるものというのもありますのでそこは大事にしていきたいと思っております。このパートの部分、正直一番ご意見、多数記述があるところになっていますので一番ホットなスポットだったかと思っています。賛成は新規誘客、安全性、マナーのほうをたくさん書いていただいて、割と反対する方はチームの活動が何よりも第一優先。「それを応援するのが熱であって吹奏部じゃない」みたいな意見もいただいております。一番多様なので、多様であるがゆえに皆さんの共通の項目、最低限お互い守らなければいけないものって何だろうと、それを探していくかな?いけないのかな?と思っていて、それが安心、安全これが最低限担保されないと多様性はなかなか、みんな実現できないじゃないかと思ったりもしております。あとは質問に関してこの後お話ししますが、観戦ルールであったり入場禁止処分、去年あったことについて、ご意見をたくさんいただいているので、この後

のパートで別途お話させていただきます。最後の設問。社会に必要とされるベガルタ仙台のグラウンドづくりについての部分です。これもご覧になっている通りです。既に見ていただいている方も多いかと思います。このトピックになりますが、賛成、やや賛成が 87 パーセント。反対、やや反対が 2.7 パーセント。

1 問目の設問とそんな大差ないかと思っています。ただ一方、ここもちょっと分からぬという人が比較的高かった。大体 6 パーぐらい。1 問目が 6 パーなので、10 パーセントになっています。賛成の意見「地域との連携で相乗効果を図ってほしい」「収益を上げてお金につなげてほしい」「みんながブランディングの意識を持つともっと効果的なんじゃないでしょうか」みたいなご意見をいただいております。反対意見「プロサッカーチームとしてまず本業で黒字継続したいじゃないか」あとは「スタジアムを満員にすることから始めたらいいいじゃないか」「サポーターの声と力を軽視しているじゃないか」こういった意見をいたしております。その他「イメージが湧かない」選手、あと二つ目は選手やチームですね。「サッカーに集中する、集中させてほしい」「勝てばブランド力って上がるじゃない?」って話しちゃいますね。あとは「認知度は高い、みんなベガルタは知っているけど、そこで行われている活動のスケールが小さい」あとは「プロスポーツがこれだけ多くてみんな活動しているので、ベガルタ仙台がどう貢献するのかもっと深掘ったほうがいいじゃないか」あとは「地域貢献の活動についての本気度が分からない」というようなご意見をいただいております。ここを見ると、ここも「何で地域貢献やっているの?」とか「何でこれやっているの?」、例えば動員につながるのですよ、新規誘客なのですよとか、こういうスポンサーが付くのですよとか。そういう何でやっているかっていうことの解消。分からぬことを解消してあげなきゃないだろうなっていうふうには強く感じました。活動それぞれに対して目的や意義っていうのはありますので、そういうものをきちんとご説明して、それがクラブにどう還元されるのか、ここの説明が今まで不十分だったのだろうなと思っております。ここはわれわれもメディアコミュニケーション部でやれる仕事、たくさんあると思いますので意識してやっていきたいと思っております。このパートについては情報の発信と発信内容の充実を行っていきたいと思います。それによってサポーターの皆さんもやっているこ

とに対していろいろ意見を言っていただいたり、評価いただいたりするかもしれないし、やっぱりスポンサーです。今現代型のスポンサービジネスとしてはその看板だけじゃなくてこういったものへの貢献度、そういう充実度も評価される時代にはなっていますので、そういうものをきちんと見せていきたいなと思っています。以上がそれぞれ 3 問の設問についての割合とあとは簡単なトピックです。大きいトピックと、あとはそれぞれいたいたい意見の代表的なものになります。冒頭お話した通り重複票がありましたので一応重複排除を、これがどのぐらい影響してあったのかも最後ご説明します。それぞれ 700 通あつたので場合によっては割合が変わったり、結構なインパクトがあるかと思って最後調べております。結果としてはそれぞれ大きいパーセントの変化を与えるようなインパクトはなかったので、基本的には重複の影響はなかったと思っております。ざっくり皆さんからいただいたエクセルも私、読ませていただいていますが単純に 2 回同じものを送っている方がいたり、そういう意識的に何かプラスマイナスを送ってきたたり、違うことをプラス、プラスにしてきたりとかそういったものはなかったので。そういう意味でも視覚的にも読んだ感じ的にも重複の影響はなかったと思っております。以上がアンケートの結果の詳細です。あとはそれによってクラブが感じたこと、学びの部分のご紹介になりました。それぞれこの後のパートでお話をした部分については、このあとそれぞれの担当からお話をさせていただきますので、これでアンケートについてのパートは終了させていただきます。最後になりますがまたクラブ最初の取り組みであったのですが、アンケートに回答をいただいて、こういうことも始まりましたのでまた今後ともご協力いただければと思います。ありがとうございました。

磯田：アンケート集計結果のご説明、このパートの質疑応答をお受けしたいと思います。左の一番前の方、お名前をいただければありがとうございます。

サポートゴトウ様：今回アンケートを取ったことはものすごく良いことだと思っていまして。いろんな方のなかなか聞けない意見も聞けたじゃないかなと思うのですけども。質問があまりにも今回漠然としすぎていて、私も分からぬっていう回答したのがあったのですけども、もうちょっと具体的に質問した上で、もうちょっと項目が多くても良かったのでやってほしかったっていうのと。

あとルールの変更と他の項目一緒になって「どうですか」みたいな聞き方は非常に、ものすごく悪い言い方すると汚いやり方じゃないかな。もうこれは「はい」と言わざるを得ないようなふうに持っているじゃないかと思ったので、説明の仕方も次回やるのであれば検討していただければなと思いました。

庄子：質問項目自体についてのご意見もたしかにありました。抽象的なものと具体的なものを合わせ技一本で聞いてしまっているとか、そういうところもあったので。そこも含めて自由記述で多少補完できればなと思ったのですが、思ったよりそういった難しく逆に考えさせてしまったなっていうところはあるので、そこは反省したいと思っています。更に一方で抽象的なこと聞くと具体的に言ってほしい、具体的なことを聞くと今度は抽象的に聞いてほしいみたいなことになりかねないので、そこはまた聞き方、考えてまた次回、多少取らせる時間が増えてしまうかもしれないですが、ご協力いただけるようなアンケートを作りたいと思います。ありがとうございます。

サポーターサワダ様：まずはこのアンケートを取るにあたって、ベガルタ仙台としては何か仮説を立てられたでしょうか。こういうふうなものを証明したいっていうふうなことを立てられましたか。これマーケットリサーチの一環なのです、アンケートって。アンケートっていうのは決してマーケットから結果を得る方向ではないのです。自分達が立てた仮説を実証するための手段にしかすぎないのです。だからこういうふうに漠然としたアンケートとかを取っても本当にマーケットの声を反映しているかって言われると疑問符が付くのですけども、そのような仮説っていうのは立てられてやられたのでしょうか。

庄子：何かマーケット、物を売るとか、物を買ってもらうとか商品に特化したり、何かを商売をするマーケットとは少し違う性質があるじゃないかと思っています。仮説は立てていなくて、シンプルにクラブがやっていることに対して皆さん何を思うのか、あと何が分かってないのか、何が誤解されているのか、あとはそもそも反対なのかなっていう意見をまず聞きたいというところです。だからマーケット的な質問というよりは純然たるアンケートに近いところ。情報を拾いたい、集めたいというところで始めました。

サポーターサワダ様：マーケットじゃないと言うのだったら、ベガルタ仙台はチ

ケット売ってないのですか。試合に関するチケットは売らないのですか。サポーターだって、ファンだってチケットを買っているのだからカスタマーでしょ。そのアンケートに関する根本的な考え方がそもそもおかしい。確かに意見を拾うことは大事だけども、意見拾うのだったらベガルタ仙台のファンクラブとかJリーグに登録している人とかに限定しないで、もっと大きく拾うべきだし。これだとベガルタ仙台に賛成している人にしか取ってないのでからすごく偏ったアンケートです。手段としては。もっともっと広く取らないと本当のことは出てこないと思うのです。

庄子:その分、自由記述で本当に分からないところが補完できればいいという形でアンケートは実施しました。対象をどこまで広げるかというのは多少議論し、ただどこまで広がるかというところもあり、現状、今アナウンス一番しやすいところ、ちゃんと届くところというところでJリーグIDとソシオファンクラブの皆さんに届けたというところにはなっております。

サポーター:それはちゃんともっと広めないと、自分達に都合のいい意見しか拾わなかつたのかってことになりますよってことです。

板橋:アンケートについてのご意見ありがとうございます。いろんなアンケートの取り方があります。全体を把握するためにはよく大きなアンケートでやりますが、母集団の偏りを排除するためにはいわゆる層化無作為抽出というやり方をします。一方的にいろんなデータから無作為で抽出をして送る。回答いただいて、それが属性の偏りがないことを確保した上でアンケートの結果を評価する、これがよくやられます。さきほどのはそれに近いように聞きました。もちろんそういうやり方は技術的には可能ですが、準備の時間とお金とその元のデータをどうやって入手するか、いろんな課題があるのというのも事実です。われわれは本当に小さい会社ですので自分達ができる、まず今回初めてのアンケートでありますので、自分達としてできる資本の中でまずトライをしてみよう。その中でご指摘の点も含めてトライアンドエラーをやって。こういうやり方を1回で終わらせるのではなくて今後も継続していく中で操作の仕方、サンプルの取り方、母集団の偏りの排除の仕方。そういうものも考慮しながら少しづつ良くしていく。そういう取り組み方であるっていうのはまずお話をしなければいけませ

ん。最初から完璧な形でというのは少々われわれにとって正直荷が重いっていうところは申し上げます。ただおっしゃるようなことはもちろん今後どういう形でそれに近づけていけるかっていうのはトライしていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

磯田：お時間になりましたので、この議論は1回終了させていただいて、次に強化の話をさせていきたいと思います。キャンプ中でしたのでリアルタイムでの参加はできませんでしたが、監督とGMからビデオメッセージを預かっていますのでご覧ください。

（森山佳郎監督）

サポーターの皆さんこんにちは。この度ベガルタ仙台の監督に就任しました森山佳郎です。今キャンプも1ヶ月近くになってまいりました。第3クールの宮崎市に入っています。第1クールではかなりフィジカル的に追い込んで選手もヘロヘロな状態だったのですけど、1年間動き続ける体力づくりということで第2クールでは延岡市に入りました。多少戦術面。今も第3クールの宮崎に入っていますけども、戦術面プラスこここの連携みたいなところを深めるような取り組みをしています。まだ全然チームを固定してやってないので、そのチームの仕上がり具合とかいうのは分かりませんけれども。ただ本当に若い選手も自分がチャンス、俺が絶対掴むみたいな感じでかなり若い選手が底上げされてきているような。そこにベテランの選手が負けないぞっていうところでやってくれて、かなりいいムードでギラギラしながら長いキャンプですが体もヘロヘロになりながらもみんな頑張っているところです。

いよいよシーズンまで2週間半ぐらいになりましたけれども。今年は戻るべき場所に帰りたいというところでJ1昇格が目標ですけども、ただ昨年の16位。後半戦でいうと21位だったっていうところではそんな簡単に変わるとは思っていません。そのところは選手と共有しているというか簡単じゃないよと。本当にそこを目指すのだったら本当に変わんないと無理だっていうところで。3歳若返った若いチームの成長力にかけていくところが大きいと思いますけども。選手の今の状態を見ているとかなりやる気に満ちて、若い選手も上がってきてるので楽しみになってきているところです。ここから開幕しまして2試合のJリ

ーグとルヴァンカップで 3 試合アウェイが続きますけども、その後にユアテックに帰ってきて、いよいよホーム開幕戦となりますけども。そのときが来るのを本当に楽しみにしていますし、皆さんと熱い気持ちを共有して少しでも勝利を届けられるように、勝利だけじゃなくてはつらつと全てを出し切る選手達の姿が感動とか勇気、元気そういうものにつながっていけばいいかなと思っています。今年はチームの成績もそうですけど地域、仙台、宮城県に必要とされる愛される応援してもらえるクラブになりたいというところを一つの大きな目標に掲げていますので、いろんなところで地域貢献も含めて地域に還元できることとかいろいろ考えていきたいと思いますので、またいろいろ皆さんからアイディアをもらいながらベガルタが更に発展して地域と絆を密にしてやっていけるといいなと思っています。僕個人としてはアカデミーとの連携を深めて、今もキャンプに 5 名の選手が参加してくれていますけども、今年は 1 人ぐらいデビューさせたいなとも思っていますし、ここから 5 年後、10 年後に本当に東北の選手、いい選手が仙台に集まってそこで育った選手がユアテックで活躍するというのをつくっていく 1 年。もちろんこれから監督は変わっていくと思いますけども、その礎をつくっていきたいと考えています。というところで今年全力を尽くしてクラブの発展に貢献できるように頑張っていきますのでよろしくお願いします。サポートをお願いします。ありがとうございました。

(庄子春男ゼネラルマネージャー)

皆さんこんにちは庄子です。本日はクラブミーティングにご参加いただきまして誠にありがとうございます。チームは今宮崎でキャンプ中ですので本日は私ビデオで参加させていただきます。よろしくお願いします。本日サポーターの方々にお話することは、三つあります。一つ目、チーム編成についてです。これまで以上に 2 年後、3 年後を見据えたチームづくり、地力を付けて J1 に上がつても簡単に落ちないようなチームをつくっていこう。そんな心掛けで取り組みました。もう一つ、J1 にいたころの強い仙台は在籍期間が長い中心となるような選手が 4、5 人いたと思います。そういう選手を育成していくことも大事ではないかと考え、若い選手を中心に編成に取り組みました。ですから今年は育成しながら勝利に拘っていく、そんなチーム編成に取り組みました。

二つ目は戦い方です。スタイルとしてはオーソドックスなスタイルになると思いますけども、去年の反省を生かして球際の激しさとか、攻守の切り替えの早さとか、ラインコントロールをしっかりとコンパクトにする。相手にスペースを与えない戦い方とか。あと90分間戦えるスタミナ。そのへんの強度をどんどん上げて、しっかりと準備して開幕に備えたいと思っています。スタイルにつきましては今年オーソドックスっていう話をしましたけども、この中で仙台の強みっていうのを見つけてそういう形で仙台のスタイルを構築していくばと考えています。三つ目は目標です。当然J1昇格を目標に戦います。昨年町田さんが昇格、1位で昇格しました。シーズンを通しての得点と失点を見ますと平均で得点が1.9。失点が0.8です。2位の磐田さんは得点が1.8。失点が1.0。シーズンを通して得点が、2点以上失点が1点以下。これをクリアすれば間違いなく昇格できるような数字です。1試合、1試合その数字というのと向き合いながら戦っていきたいなと思っています。ちなみに去年の仙台は得点が1.1。失点が1.5。ですから得点と失点が逆転する、そんな戦い方をしていかなければ、なかなか昇格は難しいなと思っています。最後になりますが、仙台は突出した選手つは今のところいません。ですから結束して束になって戦っていく必要があるかと思います。長いシーズン、いいときも当然悪いときもあると思いますけども、どんな状況にも関わらずサポーターの皆様にはユアスタに足を運んでいただいて、選手の背中を是非押していただきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。本日はどうもありがとうございました。

磯田：合わせて9分ぐらいのコメントでした。お二人とも明確にJ1昇格を目指すとはっきりとおっしゃっていましたし、その中で強いクラブ、地域に愛されるクラブ、アカデミーとの連携も含めた育成型クラブを目指すというところがあります。東北の選手が集まるようなユアスタに集うようなクラブを目指すというふうに決意表明をしておりましたので、是非引き続きご声援を賜ればと思います。

では続きまして23シーズンの入場禁止処分の対応についてです。門間部長お願いします。

門間義幸ファンコミュニケーション部長（以下門間）

今回のアンケート質問の中で昨年の処分に対してということで、その後や現状、判断基準などどうなっているのか、ということがありましたので説明させていただきます。まず7月7日に弊社のホームページでリリースしておりますが、6月11日のジュビロ磐田のチームバス囲みに関する処分のリリースをしております。そのときは22名の無期限入場禁止、内1名に通告済という内容でした。その中で氏名等不明なサポーターも多くおりましたがいろいろな調査を順次しまして通告を実施しており、10月3日に取締役会後の記者会見議事録をホームページで公開しておりますが、その時点では22名の内14名に通告済というリリースをしておりました。現時点、22名の内17名に通告が済んでおり、残り5名に関しては現在調査と対応を進めている最中となります。

その対象者であります22名について、クラブとしては処分対象者と弁護士を立てて法的な協議を続けている現状にありますので具体的なところまでは踏み込んで話すことができませんが、私どものほうで当時の状況、複数の映像がございます。その映像を確認させていただきました。またその場に居合わせた方々の証言なども確認させていただいております。更に弊社の顧問弁護士のほうに相談しており、その映像と証言を確認いただいた上で立ち入り禁止エリアに侵入し、法令およびJリーグ統一禁止事項を含む観戦ルールに違反したと確認が得られた方22名を処分対象としております。したがいまして、立ち入り禁止エリア、制限エリアに入ったサポーター全員が処分対象というわけではなく、エリアに侵入して法令やJリーグ統一禁止事項を含む観戦ルールに違反したという確証が得られた方22名を処分対象としました。以上となります補足等あれば。

磯田：「どういった方が対象なのですか」とか「何で何百人もいたのに22名だけですか」とか「その人達はちゃんと証拠があるのですか」とか、お問い合わせはたくさんいただきました。今申し上げたように22名に関しては複数の映像と複数の証言があつたうえで確証を持って弁護士と相談した上で決めている。一言で申し上げますと、そういうことで決めているということでございます。もちろんそれに対してご反論とかご意見とか等もあるかもしれません、確証を持ったものに対しては、確証を持ってご意見なり反論をしていただかないと「そうだと思う」とか「そうじゃない?」とおっしゃっていただくご意見はあつ

ても否定するつもりはありませんが、であればそれを証明、証拠を持って証明していただくという形じやないと、なかなかわれわれもご意見をいただいたとしてもわれわれの持った確証のほうが有利なのかなというところが正直ござります。説明の補足になります。ここに対しての何か質疑応答、ご意見があればぜひお寄せください。

サポーターオオヤマ様：磐田戦の事象について、それはバスを囲んだというのも非常に良くない行為だと認識しております。ただ本当に確証のない話をさせていただきます。観戦者の仲間というか友達の何名もがその入り口の所に柵があるのですが、そこを外したのは警備会社だと聞いております。それと何故バスの所まで行けたのか。それは社員の方、運営の方がそこまで連れてきたというふうに聞いております。それは本当なのかどうか、きちんと確認していただきたいです。そうしないと柵が外されて、運営の方がそこまで連れてこられて「どうぞ」っていうふうに言ったのでは、処分された人だって当然納得いかないんじゃないかなと思います。あくまで私の話は噂話に過ぎないのかもしれません、そういうことがもしかしたらこれは大変なことです。サポーターにとって出入り禁止というのは死刑です。これをやるということは当然それなりの覚悟を持って臨んでいただきたいと思っております。このような噂話が出ること自体がちょっと異常な状況だと思っておりますので、そのへんご回答できる方がいたらお願いしたいと思います。

磯田：噂によるとということですけども警備会社がガードを外したと。社員がバスに招き入れたのではないかということを確認したいということですけども、いかがでしょうか。

門間：映像がありますので、もちろん再度確認はいたします。これまで、われわれが確認しているのは警備会社、社員が招き入れたということはないと思っています。というのは、状況で言うとそもそもバスがサポーターのほうに向かってきてしまっているので、そこで柵、プラ柵であったりイレクターフェンスが決壊したというふうに認識しております。ただ今おっしゃったように、やはりそういう噂が出ているのであればもう一度ちゃんと映像のほうは確認させていただきます。

磯田：映像とか見る限りではそういった事実はないのですけども、そういった噂が出ること自体確かにおっしゃる通り良くないことですのでしっかりとそういったことが今後もないように、またこれからもなかつたかどうかはしっかりとわれわれでももう一度しっかりと見極めていきたいと思っております。

サポーターオオヤマ様：目撃したという話がいくつかあったということを申し上げています。

磯田：目撃があったというところのご意見をいただきましたので、そこはしっかりと持ち帰らせていただいて、ないということの確証を、もう一度われわれもがしっかりと確証を得る作業を会社でしたいと思います。

サポーターイタバシ様：ジュビロ戦で起こったそもそもその原因がブーイングとかが長引いて、判定とかあるとは思うのですけど。今回結果もそうですけど、そういう雰囲気をつくってしまったスタジアムというか、応援の仕方、そういうのが私は問題だなとは思っているのです。もちろん仙台の選手、磐田の選手、相手チームですね。そのチームも不快に思うし、もちろん仙台の選手もブーイングばかり長引いてしまっては戦い方としてはあるとは思うのですが、そういう戦い方をして本当に観客動員等、来たいと、リピーターとして来たいと思えるのかという。1 サポーターとしてそんな雰囲気で誇りを持って一緒に声援をして戦いたいと思うのか。そういうのもフォローしてほしいなっていう思いで私はきました。私は少なくとも誇りを持って声援したい。心から勝ちたいと思って声援したいという仙台サポーターであってほしいという願いできょうきましたので、是非とも戦い方、声援の仕方、ブーイングの仕方。これについても議論をしてほしいなという思いです。

門間：ブーイングの全てが駄目というわけではなくて。やはりそこもいろいろなご意見がありますと思いますので、そこも今後いろいろと検討していくたいと思います。ありがとうございます。

磯田：イタバシ様、貴重なご意見ありがとうございます。応援の雰囲気、文化とかそういったところどういうふうにつくっていくのかというところ。われわれは応援していただく立場ですので、応援の雰囲気はサポーターの方々がつくってきたところもございますから、そういうの、尊重しながらもやはり安心、安全

がベースであった上で、やはり大きい声や声援が選手を後押しして、それが勝利につながるというところ。それをするためにはどういう議論を今後進めていくべきなのかっていうところをきょうは時間が少し限られますので、そこまで議論は深められませんが、どう進めていくというのは本当にこれから皆さんといろんな形で意見交換をしていければと思いますし、スタジアムや会社でも意見を直接言っていただける方もいらっしゃいますから。そういうことで常々開かれたクラブではあります。

次に、新しい観戦ルールについての説明を引き続き門間からさせていただきます。

門間：先ほどありました最終戦のところからの続きになるのですけども、最終戦の件につきましては 2 名の処分対象者というのがありました。一つは拡声器の応援以外での使用というところ。もう一つは太鼓を叩いたことによっての進行の妨害というところがありました。そこと直接関わるところではないようには見えるのですけども、観戦ルールの変更点というところで、今回ホームページ上でアンケートを取るときに、先ほどもちょっといろいろあったと思うのですが大きく大枠で出してしまっているのでいろんな捉え方をされているというところもある。

サポーターアツミ様：

途中で申し訳ないけど、先ほど話した通り観戦ルールの変更等も大事ですが、最終戦の話の総括というか、反省を 1 回挟んでからこれに行つたほうがよろしいかと思いますけどいかがでしょうか。

磯田：では、先に最終戦のほうを。

門間：最終戦は先ほど言いましたように、2 名のところが処分対象となりました。実際ここはホームゲーム 5 試合の入場禁止というところになりましたので試合中、キックオフしてから笛が鳴り終わるまでというところが試合ではあるのですけども、われわれ会社、運営といたしましてはやはりお客様入ってから退場して帰っていただくまできちんと試合運営をしていかなくてはいけませんので、その試合運営のところの妨害というところが一つ大きな論点となりまして、こういう形となりました。

磯田:今のところでご質問等あれば。繰り返しになりますけども当クラブが入場禁止という非常に重い判断をする際には、複数の確証を得た上でその判断を下させていただいております。ですので、われわれはしっかりとそこに関しては判断し得る自信を持った形で個人を特定した上でさせていただいている。2名というところで今回に関しては行為をされた方に関して処分をさせていただいている。この中で不明点、補足が必要なところがあれば。

サポートゴトウ様:今回の2名の処分の件でトラメガについては駄目だと明確に書かれていますので、当然駄目だというのは分かるのですけども。太鼓についてその大枠で進行妨害ということですけども、これまで同じような事象があつたときに何も処分されていないと。今回太鼓を叩いたことで駄目だということで明確な、特にない中で処分されたっていうのは、例えば今後クラブが何かしようしたときに「それが駄目だろ」とか「反対しただろ」っていうことで何か反対に意思表示をした際に処分をされるっていうのは非常に危険ではないのかと。

今回例えば変わるのであれば、そこに明文化されれば当然それに従うっていうのは当然ですが、それを後付けでやられるっていうのは非常に危険ではないのか、おつかないなと思ったので。そのへんだけご意見させていただきます。

門間:トラメガのところは今おっしゃったのは応援以外の統率というところです。太鼓のところに関しては後でホームページも見ていただきたいのですけども、規約に載っているところで言いますと、6条（実際には5条）の12項で「試合の運営を妨害する」というところに、これも大枠のところではあるのですけどそこで当てはまったというところでこういう状況になっております。ただおっしゃる通り太鼓、じゃあ何をやっても駄目なのかということになると思いますので。

磯田:ウェブのチャットのほうでヨシムラ様からご質問がありまして「具体的に何が妨害に当たると判断しているのでしょうか」と少し具体的なところを聞きたいようなご質問があります。どういった行為が妨害行為かというところのご質問です。ご回答お願いします。

門間:いろいろと試合後のアンケートでも一般の方からもいただいたのですけども、実際スピーチをしている際にサイレンと同時に太鼓を叩いたというとこ

ろ。これを鼓舞するとか、この結果を受けて意思表示したというところもあると思うのですが、そのサイレンと太鼓のところで「スピーチが聞こえなかった」とか「運営妨害なんじやないのか」「進行妨害なんじやないか」というところもござ意見をいただきました。そういうところが当てはまっているというと弊クラブでは考えております。

サポート一ヨシダ様：きょうは貴重な機会を設けていただきましてありがとうございます。こういった入場禁止処分、違反行為っていうことで処分されているわけですけど、先ほど言った通り、規程上に明文化されている、それを試合とか運営上で解釈してやるというのなら、それはそれでいいのかもしれませんけども。問題が、それを抑えようっていう何かやることもなく、行為に対してやってからもう処分っていうふうにしかよく見えなくて。昔で言うといろんなやんちゃなこともしてきたと思います。その中でも応援中心部であったり、そのあたりに警備の方、フロントの方、運営の方とかもいらっしゃいながら「それを止めてくれ」とか「静かにしてくれ」とかいろんなことをやりながら抑えられたっていうところがあったのかなと思います。今回はそういったことで抑止策、そういうことをした上でそれでも従わなかったからこうやったのか、それともそういう防ぐ、防止策を何も施されずにやった結果に対して処分が下させているようにしか見えないのですが、今回どういった形の防止策を取られているかってことについてお聞かせいただきたいと思います。

門間：太鼓を叩いた方に関しましては、うちの警備のほうで「それは止めてほしい」という声がけと、その場ですぐ脇にいましたのでそこはずっと言っておりました。そこも止めていただけなかったという状況でした。トラメガに関しましては、スタンドの最前例で鳴っていたと認識しております。そこに関しましては警備が2名行っております。2名行った上で、こちらもきちんと警備のほうで対応しなくてはいけないのですが、なかなかそこで止めることができずに逆に追い払われてしまうというような状況がありました。ただそこでももう一度追いかけてやるとかいうところもありましたので、それはわれわれの警備のところではあるので、きちんと警備で止めるということもやっていかなきゃいけないと思っております。

サポーターヨシダ様：是非結果だけで処分というよりかは極力その場で抑えるとか、そういったところも含めて引き続きお願いしたいなと思いますので、よろしくお願ひいたします。

磯田：貴重なご意見をありがとうございます。ウェブのほうで手が挙がっています。

サポーターナガシマ様：私も実際スタジアムで観戦させていただいて最終戦見ていたのですけども。やはり去年の最終戦っていうのは成績があれだったので荒れるだろうなと思ったんですけど、想像以上にひどい状態で。今回の処分は妥当なのかなっていうふうには。今までああいうことありましたけど、ブーイングとかでやっていたのであればちょっとひどいなって思ったんです。ただサポーターがそれをする理由っていうのもクラブとサポーターの間の距離感がすごく離れてしまっているのかなっていうのもあります。今回みたいにクラブがこういったオフィシャルでミーティングを開催していただけるのはとてもありがたいのですけども、サポーターが行っているミーティングにクラブのほうが参加しないということもあって、あんまり意見交換ができるない結果お互いのボタンのかけ違いみたいなのが起きているのかなっていうのが率直な意見なのです。もちろんジュビロ戦のことがあって、なかなか意見の相違があるのかもしれないのですけども、もう少しあお互いの意見をぶつけ合ってそれで今回の例えば観戦ルールの変更点に関しても、お互いが納得した上でやっていただけると今年の開幕戦もみんなで熱い応援ができるのかなっていうふうに思っています。

門間：私個人的にはやはり、いろいろと過去のことも踏まえるとサポーターと会社が話してきたということもありますので、そういう場はつくっていかなければいけないんじゃないかと思っております。先ほどもおっしゃっていましたけども、われわれって処分ありきで考えているのではなくて、やはりきちんとサポーターに対して警備が対応できいたらそんならなかつたということも多々あると思いますので、そこはわれわれも試合運営のところで努力していくべきところだと思います。

磯田：対話を続けるということは非常に重要だと思います。きょうのようなクラブミーティング初めてさせていただきましたけども、2時間と限られている時間ですので意見もなかなか全部はできないと思いますから、引き続きどういった

形でクラブとサポーターの皆さんのが開かれた形で、どういうふうに議論をしていくかというところは、非常にクラブとしても真摯に向き合っていきたいと思っています。やはり皆さんの幅広くいろんな方々の意見をしっかりと取り入れた上で、多数派もあれば少数派の声もあると思いますし、少数だから駄目というわけではなく、いろんな声を拾い上げられるような環境をつくっていきたいと思っておりますので、また折を見てご参加いただければと思います。

サポーターハヤサカ様：門間さんの説明にあったところだと「太鼓を叩かないでほしい」と「叩くな」っていう止めに入ったっていうのは明確に違いがあると思うのですけども。自分も見ていましたけどもトラメガの音を鳴らしているやつに関して、警備が止めに入ったっていう瞬間を目の前にいたのに見た記憶がないのです。つまりそれって冤罪ですよね。だったらこれ 1 名のトラメガの処分のほうに関しては処分取り消しじゃないですかっていうふうになっちゃいますよね。何を根拠にそれを止めに入ったって、目の前にいた人達が見ていないのに処分が出ているのかっていうのがちょっと怖いのですけど。もしかしたら声かけたかもしれないんですけども、止めに入ったっていうようなやり取りに関しては、自分含めて周りも見てないはずなのです。これってどうなのですか。逆に聞きたいので、誰がこういう処分を決めたのかとか実際に根拠っていうのは示してもらわないと多分みんな厳しいですよね、不安でしかないですよね、応援に行くの。都合が悪ければ処分出されちゃうってなっちゃうのでそこを教えてもらってもいいですか。

門間：太鼓に関しては、明確に叩かないでほしいと言っております。トラメガは最前線にいた方だと思うのですけども、そこは警備のほうがいなかつたというか、見てないというところでしたけども警備 2 名が行っておりまして、その警備からも話を聞いております。実際そこの映像も撮っております。実際に警備がスタンドに向かって行っているという映像もあります。ですので、実際行ってないっていうのはないと思っております。

実際にトラメガやっていた方の隣まで行って話しているところもあります。そこで実際揉めているところも映っております。トラメガ触った、触らないでいろいろあったというところまで現状あります。

遠くの映像もありますし撮っているのもあります。鳴った瞬間のところは警備の目視で確認しておりますので、その確認は取れています。

処分対象の方には実際に映像を見ていただきました。本人としてはやったということまでは言っていませんけども、この映像どうなんですかっていったときに実際の証言との齟齬があったのでその確認はしております。

サポート一員ハヤサカ様：やっぱり処分だけじゃないんですけど、全てのコミュニケーションのところを遠ざけた結果が今なんじゃないですかっていうふうに思っている人ってたくさんいると思うのです。今までクラブとサポートー市民後援会が主催したサポートーカンファレンス。きのうも自分も出ましたけどもサポートーからもらった意見を募ったものをクラブのほうに、市民後援会がまとめたものを提出しているはずなのですが、その回答って出してないですよね。いろいろ70件近くの意見とかもあるのですが、そういうもののクラブからの返答とかもない状況なのでこういった不信感が生まれているんじゃないかなと思うのです。そのところってクラブとしてどう考えるのかっていうのを聞いてもいいですか。

磯田：後援会さんから質問はいただいており、もちろん中身を拝見しております。今回の議題の中でわれわれの会議の中で回答にたり得るものが大多数かなということでありますので、そこに関しては今回のこの会を開催することによって回答に代えさせていただきたいと思っております。それとまた個別にかなり具体的なすごくいわゆる総論というよりはかなり各論というところであったり、深い意見とか細かい個別、具体案件の質問に関しては答えられることもあれば、答えられないこともありますのでそれに関しては今回この議論終わったあとに再度ご質問をここで足りないものがあれば投げてくださいと開催前の、昨日開催されているので、金曜日に後援会さんのほうには返させていただいております。非常に細かいところとか、いわゆる人事的なこととか会社の機密事項とかそういうものの質問もありますので、一般的に答えられることと答えられないことはありますから、その中で精査した上で回答はしています。今日終えた上でまた再度ご検討くださいと回答はしておりますので回答してないということはないです。

サポーターハヤサカ様:回答できないような内容のものはあんまりないと思うのですけども。サポーターがスタジアムに行ったとか、その感じていることを率直な気持ちで書いて出してくれていて。

今までもクラブのほうも参加してくれてその場で「これはこういうことなのです」って「誤解なのです」とか「こういった事情がありました」とかいう説明があつた上で気持ち良くスタジアムに通うための機会だとは思つてはいたのですけども。そんなに難しいような内容ってそんなにない。もちろんクラブとしても答えられないことはあるとは思うのですけども。そこまで例えば応援のクラブの考え方だとか、そういうもののって答えられないことじゃないと思うので。そこは答えられることから回答してほしいっていうのは率直な気持ちです。

磯田:答えられることは最大限答えますし、拝見している中で一部答えづらいものがあるということを申し上げたので、100パーセント満額回答というわけではないところは事前に伝えさせていただきたいと思います。

サポーターオオヤマ様:今もありました出入り禁止に関する事なんですが、今までもこういったこと、こういった処分っていうのはかなりあったと思います。その際に出入り禁止になった処分対象者の人というのはきちんと会社側と話をして、それが間違いありませんっていうことで肅々と処分に対応していましたはずです。今回磐田戦以降の処分に関して、果たしてお互いの相互確認があったのかどうか。何しろ22名ってなっています。17名が処分という形でとりあえず決まっているのですけどもその17名の方は「はい。確かに私がやりました」と言っているのかどうか。そこですよね。今回の2名の方に関しても果たして「間違いない」と。「私がやりました」っていうことで確認は取れているのか。どうもそのあたりはなってないような感じはするのです。それが結局のところフロントに対する大きな不信感につながっていると思うのです。そのあたりお聞きしたいです。磐田戦の方々。それから去年の最終戦の方々との相互確認。それできちんと処分に対して認めてらっしゃるのかどうか。そのあたりをお聞きしたいです。

門間:磐田戦に関して磐田戦の一番最初に処分を通達したのが1名と思うのですけども、その場に私はいなかつたのでどういう状況かというのは把握して

おりません。その後、磐田戦の処分通知はしておりますが、その場合実際話し合いを持った方々もいらっしゃいます。その方々に関しましてはその場で「映像を見ますか、どうしましょう」っていうことも話はしております。それはサポーターの皆様のほうで「見ないです」というふうに断られたこともあります。ですがこちらとしては映像として確証を得ている状況ではありますので処分の対象として通知をしたという状況にあります。

サポーターオオヤマ様：お聞きしたいのは通知したってことではなくて、きちんとその対象になった方が、その処分に対して納得してらっしゃるのかどうかということです。今までというか昔、そういうことがあったときは素直に良くないことをしてしまったと認めたと思うのですけれども。どうもそのあたりがきちんとされているとは思えないものですから。その相互確認について「私、確かにやりました」っていう、通知をしたではなくて。全てそうです、話し合いがないんです。だからそのあたりきちんと確認したいです。

門間：通知を今回出した方全員が本人の中できちんと認めて納得されているかっていうのはそうではないと思います。そこに関しては今おっしゃる通り通知するときの証拠を出すところなのか、きちんとした映像を見せるところなのか、そのコミュニケーションの部分かと思っております。ですが、認めないからといってそれが罰則規定、違反が許されるということではないので、そこは通知をせざるを得ないという状況ではございます。

磯田：時間も少し押していますので、新しいルールの変更点のほうに移させていただいたいと思います。

サポーターサワダ様：最後まで聞こうかと思っていたのですけども敢えてここで聞きます。クラブとチームとサポーターとの関係性っていうのは経営陣として、どのように考えてらっしゃいますか。

板橋：これはJリーグ全体の同じ考え方ですけども、サッカーにおいてサポーターの熱意、熱量っていうのは試合を盛り上げ、また皆さんの求めるものを提供する上で極めて大事な要素だ、これ60クラブ全員の共通認識です。それはこれまでこれからも変りません。一方で昨年、日本サッカー協会それからJリーグ事務局そして60クラブ総勢がメッセージを出しておりますけれども。われわれ

仙台のクラブだけではありません、全国的にもいろいろなトラブルがありまして、それに対して従来あまり強いメッセージを出していなかつたっていう経過はありますけれども、昨年の段階でやはりこれはこのまま放置はできない。今申し上げた主体が全部連名でメッセージを出しております。その中には先ほど申し上げたサポーターの応援っていうのが非常必要だと。大事だと。一方でごく一部の方々ですけれども非常に短絡的な判断で、いわゆる暴力、威嚇、強要そういう行為をして他の方々に大変なご迷惑をおかけする、また試合の適切な運営を妨害する。こういうことをこのまま放置はできないということを表明しております。事案の中では全国に動画が流れて大変な問題になった事案もあります、何故こんな状態を放置するんだというのがいろんな批判の声が寄せられたそれも背景にあると思います。結果として、われわれは皆さんに観戦ルールをしっかり守っていただくことで誰もが楽しくサッカーを楽しめる、応援できる、そういう環境をしっかりとつくっていくことが大事だと思っております。従ってルールを守って熱量のある応援をしていただきたいとお願いをしております一方でルールを無視する。あるいは他の方々に対するいろんな行為がご迷惑になるということは当然排除していかなければいけない。もちろんこれまでリスペクトという言い方で、場内で啓発活動をやっております。掲示もしております。動画も流しております。音声での呼びかけもしております。ただなかなかそれが全体にリスペクトというのが浸透していないというのも実態です。そういう中で自体がどんどん厳しい状況になって、これは放置ができないというのが先ほどのメッセージです。連名で、私ども 60 クラブ共同で出しております。私どもも全く同じ考え方です。選手が実力を発揮すること。これが、クラブが皆さんに支持をされ、そして経営として安定してしっかりととしたクラブづくりが進む、そのためにも選手、頑張りを応援するサポーターの皆さんの熱意、これは極めて大事だと思っております。そのためにわれわれは日々努力をしております。ただ、だからこそ何でもできるというわけではありません。そこは皆さんの中で他の方々の自由な応援を尊重し合うという、そういう精神もこれはしっかりと守っていかなければいけない。

そのことをこれからやっていきたい。本日これからご説明いたします、新しい観

戦ルールもそれの一環だろうと思います。先ほどいろいろご意見もありました、運営側も十分な対応をしたのか。説明責任という意味で十分伝わっていないご意見だと思いますので、これは今後の説明の仕方でいうところでわれわれも工夫していかなければならぬと思います。ただ本当にわれわれとして自由にものが言える状況に必ずしもないという、そういうやり取りもあったということはこの場でお話をさせていただきたいと思います。ただいずれにしてもこれからそういうものを正常化させていきたいという、そういう思いでこの場におりますし。これからはどうするのかっていうところのお話をさせていただきたい。そういう認識でございます。

サポーターサワダ様:Jリーグ全体としてのお話は分かりました。私としてはベガルタ仙台の経営陣としてサポーター、経営陣としてのサポーターへの見解をお伺いしたかったです。それが公式見解とあるのならそれで構いません。

板橋:先ほども申し上げたつもりだったのですけれども私の認識としてJリーグが示したものと全く同じ認識でございます。

磯田:最後にその他質問を設けていますから、皆さんのご意見は賜りますけども、ルールの変更を説明させてください。そこから後ほどご意見をいただきますので、よろしくお願ひいたします。

門間:変更点は資料記載の通りではあるのですけども昨シーズン多くのお客様やステークホルダーからホームゲームの運営についてご意見をいただきました。そこで幕類の事前申請制を開始いたします。申請対象としましては横断幕、大旗、ゴール裏の大旗や振り旗などです。あとメッセージ幕。メッセージ性を明記しているものなど全て原則幕類は申請が必要となります。基準はLフラッグにさせていただいているのですけども、Lフラッグのサイズのもの、もしくは来場者記念としたものは申請対象外と考えております。それと1人が両手で持てるようなサイズのゲートフラッグ。こちらも申請不要となります。サイズの規定をLフラッグとしておりますのでLフラッグを超えるサイズのゲートフラッグなどは申請が必要となります。申請方法としましてはオンライン申請となります。原則、申請期日は各試合の5営業日前までとさせていただきますが、ホーム開幕戦につきましては2月29日(木)までにお願いいたします。一度申請いただき許可

を受けたものは通年で許可となりますので毎試合、毎試合申請していただく必要はございません。原則としては試合当日の申請等はできませんので必ず期日までにお申し込みください。申請の許可はクラブから申請者への許可書をメールで返信いたします。提出許可証が送られていない場合、掲出はできませんのでご了承ください。クラブからの申請は掲出場所を確約するものではないので、こちらは事前に幕の貼り方などでやつていただいておりますが、サポーター同士で話し合って幕を貼る場所を決めていると思いますので従来と変わりません。スタジアムでクラブまたはスタッフ、係員が掲出許可証の掲示を求める場合がございますので、その場合は許可証の掲示などをいただきますので必ずご持参ください。

大枠の概要ですので詳細は後日ホームページでリリースさせていただきます。それに併せましてホームゲームの管理規程等々の変更等もしております。こちらまだ案ですけども、細かいところですと、ペットボトルの持ち込みも今市販されているものだと容量が以前と違いますので、ちょっと変わっているところもありますのでこちらは別途ご確認いただければと思います。

磯田：ルール変更のところでのご質問、ご意見等、確認等あれば举手、zoomの方は举手ボタンでお願いいたします。

サポーター カタヤマ様：さっきの最終戦の処分の話とつながると思うのですけど、先ほど妨害の話が、妨害の定義が結構大事になってくるかなと思うのですけど。先ほど妨害を「何故、妨害と認定したのですか」という話の回答の中に「お客様のアンケートに妨害に当たるんじゃないか」という意見があったので妨害と認めたみたいな話があったのですけど。それだと多分気分で妨害だって感じたら全部捕まってしまって、全部処分せざるを得なくなると思うのです、皆さんが。皆さんが僕達に対して処分をばんばん連発しなきゃいけないことになっちゃうので。妨害についての定義をもうちょっと具体的に明確に示してもらえたならありがたいな思います。例えばセレモニーの音声が聞こえなくなるようなことをしただとか。試合中にピッチに乱入しただとか。審判殴ったとか、蹴ったとか。昔あったと思うのですけども。そういう話をもうちょっと具体的に書いていただけると多分妨害、こういうことをしたら妨害になるのだなっていうこと

が、みんなが気付くと思うので。妨害についての定義について、ご意見というかお考えを聞かせてもらえればと思います。

門間:先ほど私が話をした、いろいろな方からのご意見がありましたというのは事実です。これは多分私の言葉が足りなかったところで、意見があったからそこで処分したということではないです。意見があったのは事実でございます。ただその上でステークホルダーの方々もそうなのですが、会社の中でやはりそこはジュビロ戦のところと一緒に会社の規約と実際撮っていた映像等もありましたので顧問弁護士の方と話をして、これをよしとするかどうかっていう相談はきちんとさせていただいております。私が言った一般の方からそういうご意見があつたので処分しましたというふうに捉えてしまったのであれば、そこは言葉が足らなかつたところかなと思っています。会社のほうできちんと基準を持つてそういうことを考えております。もう一つは何をやつたかを明確に書くというところもそうなのですけども、そこも含めて今後きちんと検討してまいりたいと思っております。

サポーター カタヤマ様:会社の中で基準があるのであれば、その中で出せるもの出せないものがあると思うのです。すごい細かく、書き出すと、ものすごい量になると思うのでその中で具体的なものを皆さんのが過去にやつたことがあるようなこととか、そういうことを具体的に書いていただけすると多分みんな分かりやすいし、熱くなる方達もこういうことしちゃ駄目なのだなどよく分かると思いますので、是非そういうふうにしていただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

磯田:ルールを決める中でこれはあくまで一般論の話ですけども、細かく各論で決めていくというような決め方もありますけども、一方でそうしてしまうといわゆる抜け道が出てくる、抜け道をつくるような形になって。例えば「太鼓を叩いたらいけません」と書いたら「太鼓じゃなくて俺はバチを叩いている」とか。

「布団を叩いている」とかそういうのも実際あったのです。太鼓叩けないから布団を叩いて布団でリードするとか、ありましたよね。それで「布団 NG なんて書いてないじゃないか」みたいなそういう笑い話のような本当の話もあったので。一般的に常識の範囲で妨害となるものということで、あくまで総論でやつたほ

うがあとは皆さんの常識の範囲というところも、多分そこはあんまり大きくずれてないのかなっていうところもあります。非常識、常識の範囲っていうところを細かく明文化して、きっちり1個、1個条文化していくのがいいのかっていうのは、それはそれで少し、あくまでうちのルールだけじゃなくて一般的な法律とかの決め方でもそうなのですけど難しいのかなとは思っております。

門間：多分細かく書いておいたほうが来た人が判断できるんじゃないのってところだったと思うので、そこは一度社内で検討します。

サポーター カタヤマ様：多分してもらったほうがいいと思います。

磯田：バランスの問題かなと。曖昧すぎても駄目ですし、細かすぎても駄目ですし。その絶妙なバランスを実態見ながら決めていくということが非常に重要なと思っております。観戦ルールの変更点のところで何かご質問等ございますでしょうか。

サポーター アツオ様：意見と確認なのですが、先ほどの最終戦について処分の内容いろいろありますけども、周りにいた人も止めることができなかつたのが不思議です。ああいう本当に迷惑行為に対して周りに止める人がいなかつたのが非常に残念でした。それは話をぶり返して申し訳ございませんけども、それはそれで終わりにします。大旗の幕張りなのですが、例えば個人の名前入れたり、応援団の名前を大旗に入れたり、そういうのは可能なのですか。私としては会社名とか選手名なんかを入れるのはベストかなと思っておりますけどもそのへん確認お願いします。

門間：会社名っていうのは。

サポーター アツオ様：ベガルタ仙台です。

門間：多分他の企業名が入るとそれはスポンサー広告になるのでそれはNGとなりますけども。基本的にはベガルタ仙台とか、サポーターの皆さんのが応援している選手の名前というのは基本問題ないと思っております。

磯田：サポーターの団体名は。

門間：基本的には問題ないと思っております。

磯田：サポーターの団体名とかも基本的に問題がない。昨年いろいろ一般的に出ていたものはわれわれが一番気にしてるのはやっぱり誹謗中傷とかです。メ

ッセージ性があるとかそういったものを今時代の流れで、やはりそういったところを非常に厳しいですから。そういうものを避けていきたいというところはあります。誹謗中傷とか人種差別とかこれは国際問題にまでつながりますので。われわれだけの問題だけじゃなくなってしましますから、そういうもので横断幕を事前に見せていただいてというところでございます。

サポーターサトウ様:席のことで聞きたかったことがあったのですけれども。6条の「故意的かつ過剰な座席の確保」ってあるのですけれども以前私が経験したのが試合開始直後ぐらいに遅れて来て、座席探したのですけれども席がなくて、本当の入口の所で見ていたのですけれども。「そこ観戦禁止だ」っていうふうに言われて、警備員さんの方に。「こっち空いているのでこっち行ってください」っていうふうに言われたら周りにいた人が「ここ席取っているのだけれど」っていうふうなので怒られて。遅ってきた人は観戦しちゃいけないのかなっていうふうにも、そのときはなったのですけれども。だからそこらへんの対応とか、どうしているのかなっていうのはちょっと気になって今回説明させていただきました。あとこれはベガルタの質問じゃないのですけれども、アウェイの人が車いすか何かで観戦に来っていて車いす対応の席がなくて車いすのままアウェイで観戦していたら「ベガルタのユニホームを着てください」みたいな、そういう強制があったという話があったのですけれども。それあったとしたらあり得ないと思ったので。今回どういう対応をするのかと質問させていただきました。

門間:過剰な座席の確保っていうのは正にそのことだと思うのですけども。ちょっと話戻りますが、コロナ禍のときはゴール裏とかも座席指定で売らざるを得なくてやっていたのですが、それを明けた後からは自由席として運営をしております。

自由席の運営となってからは警備員のほうで「時間を決めて席決めをお願いします」というところも声がけさせていただいておりますので、それは継続してやらせていただきたいと思っております。車いすのところですがうちのホームで、ですか。

サポーターサトウ様:ユアテックスタジアムでの試合で、アウェイのその人がアウェイのユニホームを着て車いすで、付き添いの人もそうですけれども観戦に

来たと。ビジターのほうでは車いすのそういう対応っていうふうな、そういうのもないっていうふうなので。その対応した人は詳しくは分からないですけども、その関係者のほうで「ここはベガルタのユニホームを着てください」という強要をしたっていう話を伺ったので。本来としては誰でも障害者なんていうのは障害者の席っていうふうなのを確保すればいいって話なのですけれども。うちのスタジアムってアウェイの席とかないじゃないですか。なので、そういうふうな場合はどうしているのかっていう。その対応っていうか、こういうふうにしていますとかっていう意見を聞きたいんですけども。

門間：2年前のヴェルディ戦の話ですか。

メインの車いす席で多分ビジターユニホームを着ていたので。その件は「ホームのユニホームを着なさい」という強要はしてないです。なので、その方がどう受け取られたか分かりませんけども、こちらから必ず着てくれというのは言ってないです。ただ着られないエリアではあるので、ビジターのサポーターに関してはJリーグの事項でビジターの運営を通して対応するっていうのが決まっていますので。今対応していることで言いますと、例えばビジターエリアに車いす席ってないのですがそこは完売になっていない限りは車いすエリアではないのですけども、ビジターのほうにビジタークラブの運営の方が同伴して移動してもらって、そちらで見てもらうという対応は取っております。

磯田：チャットのほうで「昨年まで出していた横断幕も再度申請が必要ですか」という質問がヨシムラ様からお寄せいただいております。

門間：基本的には申請いただく形になります。

磯田：昨年のものも今年改めてのルールですので、ヨシムラ様申請お願ひいたします。

門間：画像付きでこういうものを出しますっていうのを出してもらう予定です。

サポータータナカ様：多分オンライン申請の詳細が出たときにまた多分書かれているかと思うんですけど、ゴール裏で大旗振っていました、私と主人と娘とその他にも何枚か大旗を持っている状態なんんですけど、それは1人が1申請、1人が例えれば5枚持つていれば5枚一気に申請可能ですか。

門間：基本的には1人というか1回の申請で1枚しかできないので、5枚持つて

いるのであれば 5 回分やっていただくことになります。ただ振っている方が明確化されているのであればその方が申請するとか。できないのであれば代わりにするっていうのはありかと思っています。

サポーター キクチ様： 昨年、私サポーター自由席のバックでゴール裏で見ていましたのすけども、サッカー少年団の団体がサポーターのそのゴール裏の座席のチケットを 50 枚とかで入ってきたことがあったんです。ただ正直に申し上げますとその子ども達が 50 枚、しかも試合キックオフ目の前のときで入ってきて。50 席確保するなんてまず自由席では無理なことだと思いますし。それで警備員としては離れ離れて見てくださいという形になってしまっていたのを見たことがありました。これは座席というか営業のほうだとは思うのですけども、その「座席ありますよ」って言われても一般のお客さんとして見れば普通にお子さんが隣に座らせている。チケット持つてないから座らせるって方もいらっしゃいますし、せっかく来てもらったのにチームメイトとバラバラで観戦するっていうのはちょっとよろしくないのかなって正直思ったところではあるのです。なので、営業としてそのあたりせっかく子ども達を招待している、もちろん招待しているのか格安で売っているのかっていうのは分かりませんけども。こういったのは、子ども達はしっかりと座席を座れて見られるというふうにしたほうがいいのかなと私は思うんですけどもいかがでしょうか。

門間： スポーツ少年団の子ども達ですよね。われわれのほうでスポ少からチケットをまとめて買いたいとか、チーム単位で買いたいっていうご依頼はすごく受けています。その際に基本的にチームごとであればお勧めしているのは指定席をお勧めしてご購入しいただいているのですけども、どうしてもやはり予算の都合上、どうしても安い席で見たいというときは、一応「まとまって見られませんよ」っていう話はしているのですが、自由席という選択をされるチームがあります。そこは継続的にそういう団体での依頼があったらこちらもその状況を説明して、「こういう可能性ありますよ」「現地でこうなりますよ」ってところも含めて説明して購入のほうをお勧めしたいと思います。

磯田： チャットのほうでササキヒロシ様からご質問があつて「有志がリストを提出しなかった場合、大弾幕、大旗がないスタジアムを見て経営陣はどう思います

か」。

北畠泰之専務取締役：ご質問ありがとうございます。有志の方が申請いただけないと幕が出ないということに。仮定の話なのでお答えしにくいですけど、これまで出していただいた方は出していただけるものだとは考えてございますが、出していただけないとどう思うかということですので非常に寂しいと思います。

磯田：ぜひ出していただいていい雰囲気のスタジアムをつくっていただければと思います、ご協力ください。あとチャットで1個あったので答えます「ユースタビジター側も同様に観戦ルール変更対象ですか」っていうところに関しては、ビジターも対象ですかってこの観戦ルールの変更点というということで。

門間：ビジター側は先ほど言いましたように、ビジターのクラブのほうが運営管理するというところがございますので、適応にはしておりませんが、われわれのほうでちょっとあれはないだろうと見つけたのは直接ビジターのサポーターに言うのではなく、そこはビジターの運営を通してやいけないのでそこは逐一運営を通してこちらから言っていきたいと思っております。

横断幕の事前提出のところはビジター対象外なのですが、例えばペットボトルのこととか、フルフェイスのヘルメット。こういったところはビジターも対象にはなってきますので。そこも使い分けがあるということをご理解いただければなと思います。

サポーターサトウ様：先ほどスポーツ少年団のチケットの話じゃないんですけど、営業の方に聞きたいのですけど、いろいろ今、こういう応援とか含めて集客を増やそうとしているじゃないですか。私泉区に住んでいますけど、よく泉区だと区民の方とかに言葉は悪いですけどもただ券をいっぱい配っているわけです。その人達に1回来てもらって集客を多くまたリピーターを増やして、客を増やそうとしているのか。今回、がっかりなのは学生の23歳以下をなくして小中高にしましたよね。私はただ券を配ってリピーターを、次に来てもらう客を増やすのがいいのかそれとも19、20、21、22の大学生が将来大人になって来てもらう集客を見込むのか。ころころと23歳以下を外してしまうのは問題。

今物価高もありますけど学生お小遣いいくらもらっているか分かりませんけど。昨年までゴール裏とか700円とか800円で見られたのが今年からは2600円とか

になるじゃないですか。そうすると大学生でもアルバイトしているか、お小遣いはいくらか分かりませんけど、2600円ってかなり痛いと思うんです。私なんかは試合20年ぐらい見てますけど、やっぱり大学4年間安い値段で見て、はまることによって大人になって稼ぐようになって2000いくら払って来る方とか年間チケット来る方もいると思うのです。今回よく分からるのは何で23歳以下を外されたのか、その理由とさっき言ったただ券をばら撒くことと安く売つても客を入れること。どっちを営業としては重要視しているのか。そのへんのお考えをお聞かせ願いたいと思います。

門間:ただ券と言いますか招待チケットですね。招待チケットにつきましては、われわれとしては新規で来ていただくお客様に関しては、そこは非常に有効だとは思っております。なので、その方をずっと招待だけで呼びたいと思っていませんし、1回来ていただいた方は、次は購入していただくような流れでアプローチをしていきたいと思っております。U23以下チケットのところになりますけども、確かに今年小中高というところで金額の設定のところを変えさせていただきました。元々とU23というところは社会人1年目までですね。そこは高校卒業して大学生のところと社会人1年目までを継続して来てつなげておく。そこをつなげて社会人になったら買ってもらおうというところで始まったと聞いております。ですけども、コロナになってからU23チケットのところで不正入場というのがすごく多くありました。そこが実際ゲートで止めて確認した方もおりますし、そうじゃないかなと思われる方もいたのですけどそこは、確証は取れなかったら判断はできないのですけども。やはり広げることで大学生年代の方、もしくは高卒で社会人になった方っていうのが、そこは社会人であれ大学生であれU23というチケットで入れるのですけど買わずに入るとか、もしくは23過ぎても普通にそのチケットで入るというのが見受けられたのでそこを踏まえて検討させていただきました。

サポーターサトウ様:今回のこと全般にベガルタさんに言えるんですけど、応援に対してもそうですけど、こういうチケットに関してもそうですけど、甘いですよ。そんな一部の人が一部か何人か分からないですけど不正入場したからまともにやって入っている人まで処罰受けているわけじゃないですか、受けている

ようなものじゃないですか。恩恵がなくなっているのですから。ちゃんと学生証を見せて 22 歳とか 21 歳で入っている人がそのチケットをやらなかつた人のせいで恩恵がなくなっているわけですよね。それでもしかしたら集客とか減っているかもしないじゃないですか。それにさつきおっしゃった、招待券で当たつた人にフォローとして、うちの親父 1 回当たりましたけどフォローなんか来ていませんよ。いつもベガルタさん、思うのですけど甘いですよ。こういう運営に関して何に関しても「やっています。やっています」って言いますけど、こういう言い方したら役所に対して失礼かもしれない。官庁みたいな感じているんです。民間みたいな厳しさがないですよ。だからさつきの応援もそうですし何かもうですけど、一部の人が分からぬことで全部処罰すればいいと思うとか、おかしくないですか。それで「また来てくれ」って「どうでしたか」とかって誘いなんか来ませんし。1 回ぱっきりで終わりですよ。だからそちらへんが俺、申し訳ないですけどベガルタさんのチケットの考えも含めて甘いと思います。だからいろんなことが生じてしまうので、もう 1 回社内で厳しくやっていただきかなないと。ぶり返しちゃいけないですけど御社の社内であったお金を持っていつて辞めた方もいますけど、そういう甘さが大きいところにもつながるのですよ。もうちょっと気を締めてやっていただきたいなと思います。

門間:分かりました。そこはご意見として頂戴します。

サポーターサトウ様:結局 23 歳は残さないの?

門間:今年は戻しません。このままで行かせていただきます。

サポーターサトウ様:そういうふうには戻らないということですか。1 回やったことによって。だからさつきの応援の方でもそうですよ。出入り禁止になった人ずっと出入り禁止じゃないですか。だからちゃんとさっきの出入り禁止になつた方の死刑じゃないですけどちゃんと納得して、だから今、23 なくなった内容だって今日ここで私來たから分かりましたけど、なくなった理由分かりませんよ。だからさつきどういう行為をしたら反則、捕まるのか何だかって言つていきましたけど、全てがだから甘いのですよ。その場しのぎなのです。不正できないようにちゃんと入り口でやればいいじゃないですか。やってからそういうチケットを販売すればいいじゃないですか。そういう対策できてなくてただ単純に客

を増やそうとかいう曖昧な意見でチケットを売って。変なこと起きたから「はい、止めました」っていくら失敗から学ぶとこがあるといったって失敗しないために考えて企画やってくださいよ。全般的にそう思います。こういったこと言つたら差別になるかもしれませんけど、さっきの席取りの席のやつだってそうですけど。小学生以下の方席に座っていますよ、自由席で。その人達に一つ、一つガードマンの人が「チケット持っていますか」なんて聞いているの、20年間1回も見たことないです。ガードマンの方がタオルとか置いてあったのは注意には来ます。でも3歳、見た目だから差別になるかもしれないですけど「3歳とか4歳の子どもは膝上で見ください」ってルールに書いてあるのに席に座っていて注意するところなんか見たことないです。だから何か全部曖昧なのです。中途半端。書いたのだったら、規約とか書いたのだったら全部守ってくださいよ。だからサポーターも守らなかつたのだから処罰します、でいいじゃないですか。社員だってそういうの守れなかつたら社員も処罰してくださいよ、1週間も会社勤めて。よくあるじゃないですか懲戒まで行かなくたって。そういうのが甘いのです。だからバスの1件もそうですけど、サポーターの方の開けたか開けなかつたってあれ、そういう話出るのは御社の社員が甘いと思いますよ。何かどつか甘いと思います。だから今、社長が。これまた違う意見で1人1個意見までとしていますけど、今ベガルタ仙台と市民後援会とコアサポーターっていうか、ベガルサポーターとファンの間もめちゃくちゃですよ。今本当は一番きょう聞いたかったのは市民後援会ってどういう立場でいるか全然分かんないんですもん。前回の社長が行っていますよね、市民後援会にいますよ。市民後援会の方が社長にもなっていますよね、だからいいんですけど。もうちょっとはつきりしてください。守ることは守って。じゃないとなあなあで誰も言うこと聞かないですよ。みんなが納得するように御社も動いてくれれば、みんなも動いてくれると思います。以上です。

板橋:会社の運営についてのご意見、大変厳しいご意見だと思います。昨年いろいろ問題事案が発生したこと也有って、私どものマネジメントに重大な瑕疵があるのではないかというご意見が多々ありました。詳細についてJリーグのほうで分析をして結果的にわれわれの重大な瑕疵というのを認められて、いわゆ

るわれわれが処分を受けたというのが事実であります。したがいまして、われわれの運営に十分でないところもあったというのはしっかりと受け止めないといけない。それはその通りだと思います。一方で、私どもがルールとして定めているのはある意味皆様との紳士協定と言いますか、実際には性善説に立っているところも正直あります。一つ、一つ全部チェックしてというお話ですけど、これ現実にやるとなると膨大な人と手間と時間とお金がかかります。実際にそれをどここのクラブがやっているのかって話になると、なかなかそこまで手が回っている所はないと思います。ある意味われわれリスペクトと言っているのもそれぞの立場、お考え、もちろんありますけども、周りの人に迷惑をかけないためにお互いに配慮し合いましょうというのが基本にあります。従ってそれを今後ともしっかりと守っていく、そのための新しいルールでもあると思っております。もちろん声がけもします。実際にそこで疑問な点があれば直接お話を伺うということもしますけども、全てに渡って完璧にというご要望であれば、これはなかなか正直難しいと思います。

われわれといたしましては今われわれに委ねられている人、物、お金、時間、情報、そういったわれわれの裁量下にある有効な経営資源、それを最大限に使って求められているものに極力近づけるような努力を一生懸命していくと。それはこの場で申し上げたいとは思いますけれども、全てに渡って完璧にやっているかと言われるともちろんそうではないですし。その点についてはわれわれとしてできる範囲のことをやっていく。われわれだけでは当然できないと思っていますので、そこは観戦していただいている皆様方のご協力がないと、なかなか皆さんにとって快適な環境にはならないだろうというふうには思っておりますので、今後ともわれわれとしての呼びかけはしていきますし、われわれとしてできることはいろんなご意見を受けて着実にやっていきたいとそのように思っております。

磯田：チャットで質問がありまして「例えば震災等の応援メッセージや横断幕も5営業日以内に申請が必要ですか」ってお聞きいただいているけど、基本的に全て申請が必要ですのでご協力お願いいたします。あと「旅行かばん等の持ち込みも厳しくするということなのですけども、スタジアムでの預かりを十分に

してほしい」「泉中央にはコインロッカーがないのでスタジアムに十分にやってほしい」というところにご要望が来ていますので、そこは運営のほうで預かる対応をしっかりとしていきたいと思っております。あとヒラサワタツキ様からのご質問で「不正入場者は出入り禁止にならないのでしょうか」というご質問がありますけども、そのところは特定ができてなかったか、含めてご質問のご回答お願いいたします。

門間:いきなり出入り禁止というよりはJリーグに罰則規定がありますので、そこに照らし合わせての処分となると思っております。

磯田:出入り禁止になるもの、最初からなるものと、ならないものとっていうところと今厳しくしてほしいというご意見がありましたので、そこはしっかりとクラブとしては一番良くないものですから、そこはしっかり厳しくというご意見は非常に分かりますありがとうございます。

サポーターソガ様:いろんな細かい問題があると思うんですが、やはり先ほど監督と庄子GMも言っていたように目標はJ1昇格だと思うんです。皆さんそれを望んでいると思います。ただJ1昇格するためにはベガルタに関わる人が同じ方向を向いてまとまることが必要であることは、皆さん異論はないと思います。これをベガルタに関わる人を誰がどのようにまとめのか。まずはこの場でいろんな不満が出てきますけども、まず会社内で一致団結をしてやはり会社が進むべき方向を示してほしいと思います。遠藤康選手も記事で言っていました。「選手、フロント、サポーターがお互いリスペクトし合って前に進む関係性をつくりましょう」これが私の望みです。よろしくお願ひいたします。

磯田:みんなで同じ方向を向いてJ1昇格を果たしましょうということで、非常にありがたいご意見でございます。

サポーターヒラヤマ様:皆さん記憶に新しい2021年9月に経営ビジョン21が策定されまして、大々的にYouTubeなどで配信されました。そして5年後のあるべき姿として経営規模が35億円を超えてという。ここで持続的な黒字計上そして強化費を確保して、常にJ1上位で戦うということになっていますけど先般1月の会見では23年度の見込みが24億8900万、24年度が24億6800万ということで10億ぐらい開きがあって5年後、25年。で言うとかなり開きがあるのです

けど、このへんのご検討はどうなのか。

磯田：経営規模をどのように拡大されるかっていうご質問だと思います。35億というところを掲げたのは確かに2021年に掲げております。現状今おっしゃる通り10億ぐらい乖離がありますが、まずはとにかくみんなが口をそろえていたのはJ1に昇格すること。J1に昇格すれば今大きくそこで大きく上がると想定されるものがまずJリーグの分配金ですね。ここはJ1とJ2で今数字開示されていますけど3億ぐらい、2億から3億ぐらい変わってきます。それぐらい増えるというところの目算はあると思います。あと入場料収入です。コロナ前は6億を超えている入場収入が先般発表させている通り3億7500万というところで2億強足りていないところがあります。ここをどう戻すかっていうところ、先ほどチケットの件でいろいろご意見いただきましたけども、そこでどう売り上げを取っていくのか。入場者数を増やすだけでなく入場収入を増やすこと。それによってJ1に上がるようなチームをつくることによって入場料収入を増やす、分配金を増やす、またそれをもって賛同を得てスポンサー収入を増やす。ユニホームの枠もまだ空いておりるのでそこには強いチームであったり、魅力のあるチームにスポンサーは付くというのは当然常ですから。そういうチームを目指すことを皆さんで一体になってJ1昇格を目指して強いチームをつくることが35億達成するための一番の近道だと思っておりますので是非そこは引き続き、声援賜ればと思います。

サポーターヒラヤマ様：ユアスタの改修について

磯田：仙台市のほうで長規模、長寿命化計画というところで大規模な修繕等は入っております。公表されるところで言うと、今年ついにやっと照明が変わりまして水銀灯からLEDになったので光はすぐ消えて、付いて消えてといった演出が、いわゆる一般的なJリーグチームが他のチームがやっているようなことができるようになったり、改善等はされてはいますけども。スタジアムパーク構想っていうのをやっておりまして、どういうふうにスタジアムの魅力を上げていくのかっていうところは中、長期的にお金も人も物もかかることですので。今おっしゃる通り財力がないのでそこをどういうふうにベースを強めながら進めていくかっていうところは、もう少しお時間をいただかないと明確な回答はできない

かなと思います。具体的な財源のご提示もありがとうございます。負担付き寄付であったり企業版ふるさと納税とかいろんな財源、考えていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

サポーターワタナベ様：私の質問、全然毛色が違うのですけど昨年起きました横領の問題について。独立した第三者委員会による調査等を行って更に再発防止策を策定したか否かを教えていただきたいです。

磯田：独立したというのは、Jリーグの調査。

サポーターワタナベ様：違います。クラブから独立した弁護士とかの先生による第三者によるクラブ内の監査の内容とか、定義の検証とか。内部統制ができてなかったことに対する調査をされているかどうか。

磯田：それに関してJリーグは、クラブとリーグは別物で、

サポーターワタナベ様：クラブでそういうのを委託したかどうか。もしくは再発防止策をもう立てているかどうかを教えてほしいです。

磯田：対応策は立てております。

サポーターワタナベ様：それを何で公表されてないんですか。ホームページに書いてないですよね。

磯田：大枠のところでは記者会見等で申し上げたところもございますが、ホームページで再発防止策を具体的に、例えば「ガバナンスをこうしました」とか「社内の規定をこうしました」「こう変えました」とかというところは申し上げてはおりません。内部的な情報もありますので。

サポーターワタナベ様：内部的な情報を伏せて公表すればいいじゃないですか。私登記簿で調べたのですけど七十七銀行の人間がそういう、いわゆる監査をしていて8年間横領に気付かないっていうおかしなこと普通に考えたら考えられないです。監査役の長崎さんも七十七の方ですよね。もちろんあなた達だけではないんですけど、それが9年間、かれこれ気付かなかつた。今回見つけたのも経理の担当者が見つけたと。監査役、何で気付かない。Jリーグからも「初歩的な横領です、単純な横領」って書かれているのに何でそれに気付かなかつたのかすごい疑問なのです。それをちゃんと改善できなかつたらできてなかつたで、監査で見てなかつたらできていませんでしたで、改善策を示してもらわないと。それで

クラウドファンディングで集めるとかそれこそカントリーロード大作戦なんて、正直やつたらまずいですよ。裏金やっている政治家が裏金再発防止策も立ててないのに政治資金パーティーやりますか。日本テレビ、24時間テレビも横領が発覚したんですよ、募金の。それを、対策防止策を立てられないから募金はやらないで赤十字にやってくださいってやったのです。そういうふうに再発防止策をちゃんとサポーターにも、一般の人にも、投資家にも、もちろんスポンサーにも公表するのが筋であって。それをやらないでいろいろ「お金を集めます」とか「これからも協力してください」と言われても私はできません。今年アカデミーパートナー正直今のままだと。だから対策防止策は立てているのは立てているで、もちろんそれは重要な役目を塞ぐ上で、そのプライバシーの関わるところは伏せてもよろしいですから、ちゃんと公表して。上場企業とかもそうですよ。ビッグモーターだってそうですよ。宝塚だってそうですよ。ジャニーズ事務所だってそうですよ。それをちゃんとやってなかろうと会社の地域の信頼は得られない、サポーターからの信頼も得られない、それは非常によろしくない。それでスポンサーから売り上げ伸びるとかそういうことは無理だと思います。ちなみに、会社法423条にそういう業務を怠っている人物は損害や賠償する責任があるって状況があるんです。つまりJリーグからの罰金500万円や賠償の責任がある可能性があるわけです。その場合は調査のほうで請求する必要があったら請求してください。ちゃんとそのへんの説明を明確にしておかないと、こちらもバーチケットも買えないし、どうしてもお金出すことができません。以上です。すみません長々と、申し訳ありません。

磯田：再発防止策、クラブとしてしっかりと問題に取り組みための再発防止策をということですね。「しっかりと透明性を出して下さい」というご意見だと思いますのでそこはわれわれも市民クラブとして、そこはしっかりと考えていきたいと思います。

サポーター ササキ様：このように時間がかなり短い設定だなと思いながら来たのです。定期的にこのような場を設けていただけるのかどうかをお伺いしたいと思います。

磯田：今明確にじやあ次いつやりましょうとか、次この分科会で次この議案やり

ましようっていうことはちょっとお答えできないんですけども、定期的にやつてほしいというご要望だと思います。ご要望はしっかりと受け止めて会社で協議して、先ほどの話じゃないですけどもいろんなことで明示していきたいと思います。

サポーターササキ様：どこの主催でも構わないので定期的な開催をお願いしたいと思います。

磯田：定期的にやるとするとクラブが主導とかいろんな話、いろんなご意見もあると思いますので、そういったところも踏まえて公開した形でやれればなとは思っております。

サポーターショウジ様：できれば経営陣の方のお答えいただきたいのですが、今サポーターとクラブ。チームじゃなくてクラブに溝があることを認識はしておりますか。私達も嫌いになりたくてベガルタ仙台を嫌いになっているわけじゃないのですが、すごく溝が生じているかと思っています。もし感じているのであればこれをどう改善していく手当があるのか。現状、きのうのサポカンを拒否されたっていうのも含めて距離を広げるような活動ばかりなので、それを感じているかどうかということと。今後の見通し、それをどう改善していくか。それをお聞かせいただきたいです。プラス社長が先ほどおっしゃっていたリスク。サポーターに対して感じられないので本当にあるかどうか、もう1回お聞かせください。

板橋：まずクラブとサポーターの間の溝というのは何人かの方がおっしゃります。現状で言いますとわれわれ経営のほうとサポーターの方の距離をしっかりとコミュニケーションを取らなければならない、これは当たり前の話でありますて、昨年の磐田戦の後も実はその直後にサポーターの中心部の方とミーティングをしております。詳細はここで申し上げにくいところがありますけども、相当認識の違いがありました。とても同じテーブルで話し合いができる状況ではなかったということです。それはいろんなお考えがあるでしょう。ただわれわれとしては先ほど申し上げたように、サポーターの方々があってこそクラブとして熱量のある皆さんに支持される試合ができる。これは何度も申し上げますけども基本だと思っております。たた溝があるといったときのサポーターというの

は、どの部分のサポーターなのかっていうのが実は議論が必要なのかと思います。今回アンケートを取りましたのもいわゆる少数の方々のご意見というのが他のサポーターの方々の総意なのかどうかということについて、過去データ的なものが何もない中で「自分達の意見が総意だ」という言い方をずっとされている。これは事実だと思います。ただそれを実態が分からぬ中で議論として前提に置くことはできない。これが今回のわれわれのアプローチの一番の動機です。また多くの方々の中でベガルタに対して共感を持っていただける方もいらっしゃいます。またそうでない方もいらっしゃいます。クラブ側に対するいろんなご意見、アンケートの中にはサポーターの中でもいろんな溝があるというのが実態ではないかなと思っております。全体として一つの方向を向くためには、この溝をどうやって解消するかということなのですけども、現状でいうと過去、われわれと処分の対象になった方々についてはちゃんとした形で向き合って事実を認めてというところにまだ至っておりません。弁護士を立てて法的な争いになっているというのが実態です。そういう中で十分な議論ができない。先ほども話がありましたけども、われわれとすると重大な事案であればこそ「やった、やらない」「見ている、見ていない」「聞いた、聞いてない」、そういうレベルな話はできないと思っております。事実をもって全て判断しなければいけない。そのために慎重に対応して上で誰が見てもこれが明らかだというところを特定して処分を行っております。その点については皆さんの中で情報がしっかりと伝わっていないので、いろんな憶測や噂やら、そういうものが飛び交っているというのは良くないことだと思いますので、われわれとしてはしっかりとして事実を持って証明し、説明をしていく。これはこれからしっかりと重点的やっていかなければいけないというふうには思っています。したがって現状溝があるかないかと言わればあると思います。それを解消していくなくてはいけないと思います。今回はこのミーティングもそれの一環だと思ってください。先ほどお話をありました、これも今後続くのか、というやり方、本日冒頭に申し上げましたけども、初めてのやり方ですのでいろいろご意見もありました。見直しすべき点もあると思います。そういう点を、見直しをしながら、改善しながら継続をしてやっていきたい。そういう積み重ねの上に今言われているような認識の齟齬、ずれとい

ったものが確実に埋めていくことができるだろうと思っておりますので、それはクラブとしてしっかりと責任を持ってやっていきたいと思っております。以上です。

サポーター・コンノ様：今日のクラブミーティングがどういった方々が来られたかっていうのは、市民後援会のサポカンが一部の方しか意見しないという理由で欠席されたというふうに聞いています。あとで検証をお願いできればなと思います。見ていた感じのうも参加、2日連続で出席されるのはなかなか3連休ということで、2日連続で参加されることが難しい方もいらっしゃるんですけど、どちらにも参加していらっしゃる方もいます。その一部というのは本当にそうなのかなっていうふうに思っています。どちらも開かれた会のはずですので、会場の問題とかzoomの容量の問題とかありますけども、そのへんの検証をお願いしたい。あとは今回アンケートを取るっていうのはJリーグIDを使うのはクラブしかできないので、そういうのはクラブでいろいろ情報を集めるっていうのはいいと思うんですけど、それでその情報を持ってサポカンに参加することは可能かなと思いますので、今後ご検討いただきたいと思って意見させていただきました、よろしくお願いします。

磯田：サポーター・ミーティング、サポーターの方々のサポーターカンファレンスとクラブのミーティングが合同でできないかというご意見だと思います。お互いにお互いの意見の中で折衷し合うというところも案としてはあり得ると思いますので非常に貴重なご意見だと思っております。今後の進め方は今後計画的にやってほしいとご意見もいただきましたし、どのような形でどのようなことがいいのかっていうのは今後検証していくので、皆さんもご意見があれば、またいろんな形でお寄せください。われわれもちゃんと声を取れるような形を考えますので、どのような形で継続していくか考えていきたいと思います。最後に、非常にいい質問をいただいたと思っております。ありがとうございます。